

# 片桐鉄工所

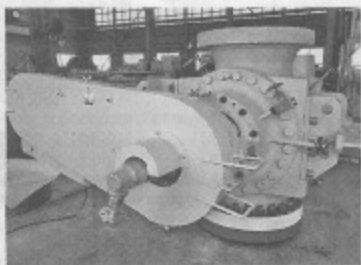
専用機メーカーの片桐鉄工所（本社・新潟市江南区、社長・片桐敏郎氏）は工作機械、船舶部品、射出成型機加工組み立て、半導体設備等、時代の変遷とともに開発力を磨きながら地歩を固めてきた。現在は真空装置や紛



片桐社長(右)と吉氏

## 産業用機械で独自技術研鑽

## 発電向けなどニッチに挑む



石炭火力発電向けロータリーバルブ

だったが、代  
理店の廃業  
（引退）を機  
に4年前から  
自社営業にシ  
フト。片桐直  
氏が営業担当  
として入社  
し、展示会な  
どに足しげく  
通い、ニーズ  
を察知すると  
だったが、代  
理店の廃業  
（引退）を機  
に4年前から  
自社営業にシ  
フト。片桐直  
氏が営業担当  
として入社  
し、展示会な  
どに足しげく  
通い、ニーズ  
を察知すると

### 時代とともに変化

### 使用時の環境 再現し課題発見

高度経済成長期に先代  
が起業。折しも住宅ブ  
ム。セメント瓦の普及を  
受けてセメント高圧装置  
にかかわり、次いで船舶  
の船装、金具など。20  
0海里水域制限で遠洋漁  
業が下火になり、さらに  
73年オイルショックで景  
気低迷。エンジンアリン  
グ、インフラ、プラント  
などさまざまな分野にか  
かわった。

片桐社長は「受注する  
際は、実際に現場に赴い  
て、自分で実際にやって  
みる」ことが大切。現場の  
人の技術を観察し応用し  
ながら設備の機構を再現  
する」と語る。

体バルブ、発電向けロー  
タリーバルブで専用機メ  
ーカールとして一貫生産だ  
からこそかゆい所に手が  
届く。材料、機械の特性  
を熟知した職人集団であ  
り、信頼性の高さに定評  
がある。

ともに自社の魅力を積極  
的にアピールする。

2014年には石炭火  
力発電向けロータリーバ  
ルブを三菱日立パワーシ  
ステムズ(呉市)に納入。  
同設備は中国電力大崎発  
電所(広島県)に設置さ  
れた。試験設備は今年4  
月稼働予定。これまで電  
その後、真空の時代と  
再現することは先代から  
継承した。

これまで代理店を通じ  
ての受注というスタイル  
月稼働予定。これまで電  
その後、真空の時代と  
再現することは先代から  
継承した。